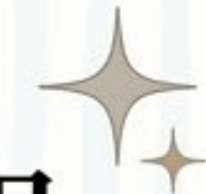




生成AIが描く、図書展示の世界



読書体験の言語化と、デジタルアートの融合

立命館大学図書館 × Microsoft Base Ritsumeikan

展覧会ステイトメント：AIと協働する新しい読書推進

開催時期：2026年6月

舞台：立命館大学図書館

協力：Microsoft Base Ritsumeikan（講師：朝山悟氏）

概要：学生自身が推薦したい図書のテーマに合わせ、生成AI（Copilot Chat）を活用して「図書展示ポスター」を制作するワークショップの成果展。

“

参加者の皆さんが様々に試行錯誤して生成したポスターの世界観を楽しんでいただけでなく、推薦された図書を実際に手に取る機会となれば幸いです。

”

読書体験がビジュアルに変換されるまで



Read (読書と感動)

本を読み、心が動く。



Verbalize (言語化)

「なぜ面白いのか」「どんな世界観か」を自らの言葉で抽出する。



Prompt (AIとの対話)

Copilot Chatに言葉を投げかけ、イメージを共有・調整する。



Visualize (視覚化)

本の魅力を直感的に伝える一枚のアートが完成。

AIに絵を描かせるためには、まず自分自身の『推薦の熱意』を正確に言語化する必要がある

Thematic Gallery Map : 4つの展示室

Room 1

自己との対話・生き方のヒント

アイデンティティへの問いかけ



Room 2

没入する美しき世界観

言葉を越えた情景の視覚化



Room 3

社会の深淵と共鳴

重厚なテーマと心の叫び



Room 4

時空を超える知と歴史

知的好奇心を刺激するノンフィクション



Room 1: 自己との対話・生き方のヒント

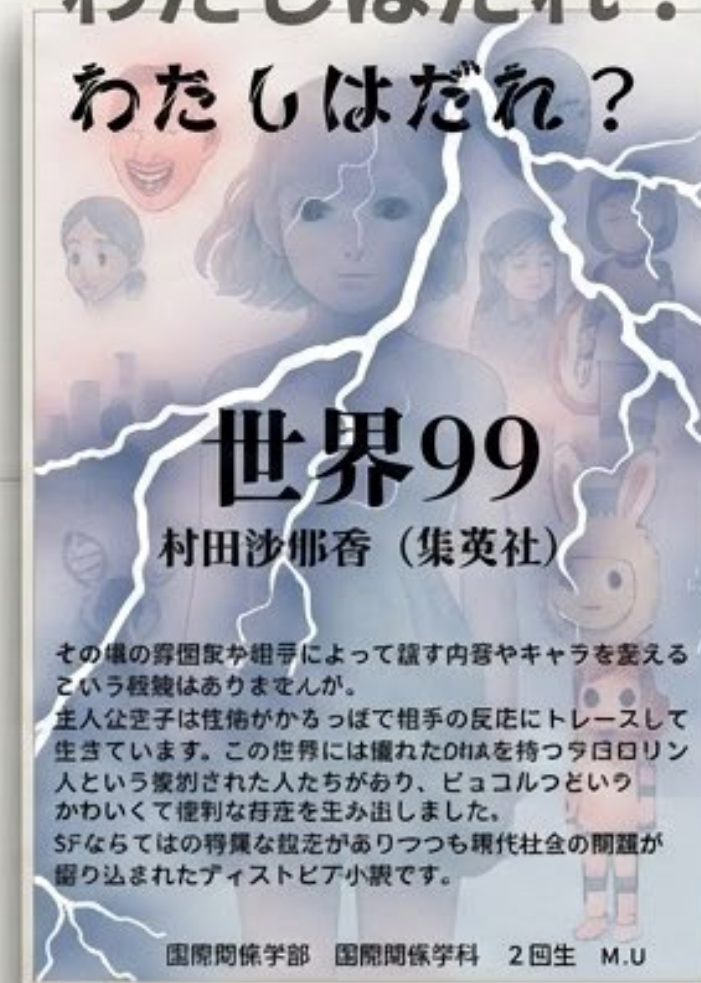
八方美人なのかもやもやする...



本当の自分とは何か、他者との
キャラの違いに悩む人へ「分
人」という視点を提案。

わたしはだれ？

わたしはだれ？



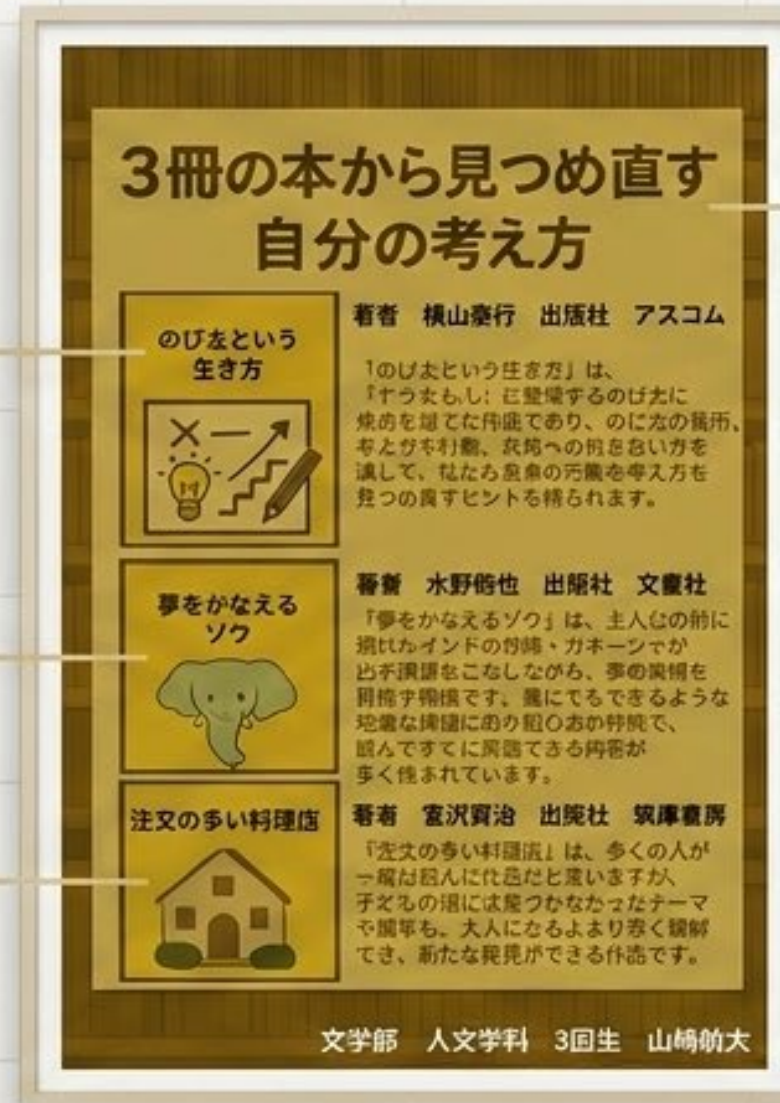
相手の反応をトレスして生き
る主人公を通し、特異な設定で
現代社会の問題を描くSF。

Deep Dive: 複数図書のテーマ横断型キュレーション

『のび太という生きかた』
- 失敗への向き合い方

『夢をかなえるゾウ』
- 地道な課題の実践

『注文の多い料理店』
- 大人になってからの新たな発見



「自分の考え方を見つめ直す」
という上位概念（テーマ）を
学生自らが設定。

単一の書籍紹介にとどまらず、異なるジャンルの本を「自己理解」
という独自の軸で結びつける、AIを活用した高度な文脈構築。

Room 2: 没入する美しき世界観



あらすじではなく、読後の「空気感」を伝えるアプローチ

Explanatory Visual: 抽象概念（香り）のメタファー化



（『透明な夜の香り』）



巨大な香水瓶：物語の核となる「香り」の物理的表現。



瓶の中に閉じ込められた情景：香りが呼び起こす「忘れた記憶」や「過去」の封じ込め。



視覚・聴覚・嗅覚のアイコン群：五感でひもとく物語であることを示すUI的アプローチ。

物理的な形を持たない「香り」という主題を、情景を内包する「香水瓶」という具象物に置き換えたプロンプトの妙。

Room 3: 社会の深淵と共鳴

(『52ヘルツのクジラ』)



I

「全てが声なきSOS（52ヘルツ）からの救いに
繋がっており、読んでいてページをめくる
手が止まらなかった」

(『流浪の月』)



AI

「真実は当事者の二人にしか分からないし、
本人自身にも理解できない悩みなどもあり、
『正しさ』とは何なのか考えさせられました」

Room 4: 時空を超える知と歴史

(『極楽征夷大將軍』)



「高師直も足利直義も良いけど、私の『推し』は足利直冬です。」という熱量の高い個人的視点。

(『渋江抽斎』)



「とっつきにくいけど、じっくり読んでみると引き込まれる本」という素直な推薦理由。

(『パンの歴史』)



「世界にはこんなにもたくさんのパンがある」。学術的なテーマを親しみやすいビジュアルに変換。

Deep Dive: 「日常の疑問」 を入り口にする視覚的フック



✨ なぜ人間はスムーズに会話できるの？ Ⅰ

倍速再生してしまうのは
どうしてだろう？ Ⅰ

難解な専門書を推薦する際、あらすじを語るのではなく、読者が日常的に抱く「素朴な疑問」をUI風（チャット画面や動画プレイヤー）にデザインすることで、心理的なハードルを大きく下げること成功している。

比較マトリクス：新しい「図書との出会い」の形

従来の図書POP	AI生成ポスター（本展）
テキスト主体、 あらすじ・要約による説明	ビジュアル主体、 象徴的なメタファーによる表現 ✨ I
論理的な興味喚起 （「こういう理由で面白い」）	直感的な共感・感情への訴えかけ （エモーショナル・フック） 💬
文章要約力の向上	読書体験の抽象化・言語化能力と、 AIとの対話力（プロンプト・ エンジニアリング）の育成

Synthesis: AIは本と読者を繋ぐ「翻訳機」

「生成AIは、個人の内面的な読書体験（感情・気づき）を、
他者の心を動かす普遍的なビジュアルアートへと変換する、
強力な翻訳機である。」



あなたの「推し」も、視覚化してみませんか？

1.

Read

本展で気になった一冊を、ぜひ実際に図書館で手に取ってみてください。ビジュアルから受けた印象と、実際の物語との差異も新しい楽しみ方です。

2.

Create

あなたの心を動かした本を、今度はあなた自身の言葉とCopilotを使って表現してみましょう。「好き」を言語化するプロセスが、読書体験をさらに豊かにします。

